

受験番号

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

働くことが A であれば、遊ぶことは悪しきことである。遊ぶことが悦楽であれば、働くことは辛苦である。何が人の人生をシユウジツさせるのか。働くことなのか。それとも遊びだろうか。働くことと遊ぶことをめぐる議論は、人の歴史と同じくらい古い。なにしろ誰もが知っているもつとも古い寓話から、もうすでにして、答えのないその議論ははじまっているのだ。

冬の季節に蟻たちが濡れた食料を乾かしていました。蟻が飢えて、蟻たちに食物を求めました。蟻たちは「なぜ夏に食料を集めなかったのですか。」と言いました。と、蟻は「①暇がなかったんだ、調子よく唄っていたんだよ。」と言いました。1、蟻たちはあざわらって「いや、夏の季節に②フエを吹いていたのなら、冬には踊りなさい。」と言いました。

蟻と蟻たち―古代ギリシャの人アイソップスの、いわゆるイソップ物語のなかでも、もつとも広く知られている寓話の一つ。この物語は、苦痛や危険に遭わぬためには、人はあらゆることにおいて不用意であってはならぬ、ということを示している、というのがアイソップスの残した教訓だ。

名高い「寓話」という本の冒頭に、十七世紀フランスの詩人ラ・フォンテーヌは、その蟻と蟻たちの話をおいた。しかし、ラ・フォンテーヌの教訓はちがう。蟻は蟻に「春になるまで食いつなぐため、穀物を少々貸して。」と頼むのだ。「取り入れ前に、きっと利息をつけてお返しします。」だが、①蟻は貸すことを好まない。

ラ・フォンテーヌの教訓は、しばしば誤解された。まちがえてはいけない。詩人は人間に友情の大切さを教えようとしたのではない。先見の明の欠如と怠惰を戒めようとしたのだ。2 貸していたなら、蟻の避けることのできない破産が、蟻たちをどんな災難にひきずりこむ②羽目になったことか。百年後、フランスの法学者ボワソナードはそう言った。

十八―十九世紀ロシアでもつとも人びとに親しまれたクルイロフの「寓話」という書物にも、蟻と蟻の話がおさめられている。二十世紀の③カクメイ後のソビエト・ロシアにおいてもなお、誰からも愛されたというクルイロフの寓話で、きびしく問われたのは B 分別。「歌また歌、ひっきりなしの大騒ぎさ。それでも分別も何もどこかへ置き忘れてしまったという始末さ。」蟻はさんざん嘆くのだが、蟻はとりあわない。

イソップ物語のような古いふるい物語の魅力は、人々の間に伝えられ、読みなおされ、語りなおされてきた魅力だ。古い物語が語るのには、物語それ自体だけではない。それは、伝えられ読みなおされるなかで、その物語にきざみこまれてきた、人びとによって生きられた日々の文化、歴史の記憶をも語るのだ。蟻の目で見れば、C が歴史をささえる。蟻の目でみれば、遊びが文化である。古い物語は、人びとがそこに、自分たちの経験を読みこむ場所なのだ。

『感受性の領分』長田 弘

問一、 〓線部⑦⑧のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

ア	イ	ウ	エ	オ
---	---	---	---	---

問二、 1 2 に入る適切な語を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

1	2	1	2
…(ア) たとえば	(イ) かりに	(ウ) もしくは	(エ) すると
2	…(ア) しかし	(イ) また	(ウ) もし
		(エ) そして	

問三、 A に入る適切な語を漢字一字で答えなさい。

Blank box for answer to Question 3.

問四、 一線①「蟻は貸すことを好まない」について各問いにそれぞれ答えなさい。

Blank box for answer to Question 4-1.

(1) 「蟻は貸すことを好まない」とあるが、何を貸すことを好まないのか。本文中から抜き出して答えなさい。

Blank box for answer to Question 4-1.

(2) ラ・フォンテーヌが教訓として言おうとした内容の一文を本文中から、最初の三字を抜き出して答えなさい。

Blank box for answer to Question 4-2.

問五、 B に入る適切な語を次から選び、記号で答えなさい。

(ア) 有	(イ) 無	(ウ) 誤	(エ) 正
-------	-------	-------	-------

問六、 C に入る適切な言葉を本文中から抜き出して答えなさい。

Blank box for answer to Question 6.

受験番号

二、次の古文を読み、後の問いに答えなさい。

①高名の木のぼりと言ひしをのこ、人をおきて、高き木に登せて梢切らせしに、いと⑦危ふく見えしほどは⑧言ふこともなくて、降るときに、軒丈ばかりになりて、②あやまちすな、心して降りよ。と言葉をかけはべりしを、「かばかりになりては、飛び降るとも降りなん。いかにかく言ふぞ。」と申しはべりしかば、「そのことに⑨候ふ。目くるめき、枝危ふきほどは、おのれが恐れはれば申さず。やまちは、やすきところになりて、必ず仕ることに候ふ。」と言ふ。

(『徒然草』)

(注) ・人をおきて…人を指図して ・軒丈ばかり…軒の高さほど ・かけはべりし…かけましたのを
 ・目くるめき…目が回り

問一、Ⅱ線部⑦～⑨を現代仮名づかいに直しなさい。

⑦
⑧
⑨

問二、Ⅰ線①「高名の木のぼりと言ひしをのこ」の現代語訳として正しいものを次から選び、記号で答えなさい。

- (ア) 木登りの名人として有名だった男 (イ) 木登りの名人として無名だった男
- (ウ) 木登りの達人として無名だった男 (エ) 木登りの天才として有名だった男

--

問三、Ⅰ線②「あやまちすな、心して降りよ」について次の問いに答えなさい。

(1) 誰が言ったのか、本文中から抜き出して答えなさい。

--

(2) 何故このようなことを言ったのか。次から選び、記号で答えなさい。

(ア) ただ単に危険なため (イ) 安全か分からないから (ウ) 用心しないといけないから (エ) 安全であるから

--

問四、この作品の作者名を次から選び、記号で答えなさい。

- (ア) 紀貫之 (イ) 鴨長明 (ウ) 兼好法師 (吉田兼好) (エ) 本居宣長

--

三、次のⅠ線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ①海岸線が湾曲している ②傷を縫合する ③昔を回顧する ④溪谷の風景を描く

①
②
③
④

四、次のⅠ線部のカタカナを漢字で答えなさい。

- ①カンケツに話す ②問題のショウテンを絞る ③契約をテイクツする ④船でカイキョウを渡る

①
②
③
④

五、次の①～④の語が類義語になるように、からひらがなを選び、に漢字に直して答えなさい。

- ①携帯Ⅱ所 ②方法Ⅱ手 ③我Ⅱ辛抱 ④派手Ⅱ美

だん・か・じ・まん

①
②
③
④

六、次の①～④のに漢数字を入れて四字熟語を作りなさい。

- ①拳両得 ②四時中 ③寒四温 ④載一遇

①
②
③
④